

第8回(2022年度) 日本セラミックス協会フェロー表彰

2010年の公益社団法人への移行後、本会は中期経営計画を策定し、その中で「表彰制度の在り方の見直し」を掲げ、表彰制度検討委員会を設置して検討を進めて参りました。その結果、協会創立125周年である2015年から、新たに「日本セラミックス協会フェロー表彰」制度を導入しております。

本フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー(英語名称: CerSJ Fellow)の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー表彰候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の4名の方が理事会に推薦され、2022年11月29日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介いたします。

受賞者一覧

(4名 氏名五十音順、所属は受賞時点のもの)

新 大軌	島根大学
井手本 康	東京理科大学
田中 諭	長岡技術科学大学
藤 正督	名古屋工業大学

2022年度フェロー候補者選考委員会

委員長: 岡田 清, 委員: 平尾一之, 山下仁大, 篠崎和夫, 陶山容子, 後藤 孝

※本年4月号後付に2023年度フェロー候補者推薦募集要項を掲載しております。

Recipients of The 8th CerSJ Fellow Awards



あたらし だいき
新 大軌 氏

新 大軌氏は、セメント・コンクリートに使用される新たな高性能分散剤や水和反応速度を制御する遅延剤および促進剤の作用機構を解明してきた。これらの成果は学術的な知見を与え、セメント・コンクリートの環境負荷低減や資源循環型社会の形成に貢献している。また、同氏は現在カーボンニュートラル社会の構築に関連した研究も積極的に進めており、さらにセメント部会幹事、部会長などを歴任し、セメント部会の活動を維持していくため

に欠くことのできない存在となっている。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 2006年3月東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻博士課程修了。同年4月室蘭工業大学助手。2007年4月室蘭工業大学助教。2010年8月東京工業大学助教。2015年5月島根大学准教授。現在に至る。



いでもと やすし
井手本 康 氏

井手本 康氏は、量子ビーム、熱力学測定を駆使して高機能性酸化物の創製および特性発現機構の解明に取り組んでいる。特に、Liイオン電池用正極材料において量子ビームによる充放電過程の構造解析、PDFを用いた局所構造解析を先駆的に行ない、この分野の発展に寄与している。特性向上には構造安定性が重要であり、これらを指針としてMg二次電池材料を創製している。2014年に日本セラミックス協会学術賞を受賞し、本協会の学術

論文誌の編集委員なども務めている。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1986年東京理科大学理工学研究科修士課程修了。同年富士写真フイルム(株)入社。1989年東京理科大学理工学部助手、講師、助教授を経て2008年教授。1992年博士(工学)取得。2020年同大副学長。



たなか だすけ
田中 諭 氏

田中 諭氏は、セラミックスの微構造変化と機械的性質とを定量的に関連づける研究を行い、なかでも、焼結体の機械的強度に直接影響を与える粗大欠陥の検出法、その形成・発達過程を視覚的に把握する方法を開発し、製造プロセス設計にフィードバックすることに成功した。これらの業績によりセラミックスの製造分野における学術上の発展に貢献した。また、本協会のシンポジウムのオーガナイザー、論文誌の編集委員などを数多く務めるなど、当該分野の活性化にも貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1995年東京工業大学工学部無機材料工学科卒業。2000年同大学大学院理工学研究科無機材料工学専攻博士課程修了。博士(工学)。同年4月長岡技術科学大学助手、2008年同大学産学融合特任准教授、2012年准教授、2022年教授。



ふじ まさよし
藤 正督 氏

藤 正督氏は、粒子界面化学を基盤としたセラミックス及び材料プロセスの研究に取り組み、近年ではナノ中空粒子、無焼成セラミックスなどの先進的な成果を得ている。これらは基礎研究に留まらず実用化されている。2013年文部科学大臣表彰科学技術賞、2015年日本セラミックス協会学術賞を受賞している。また、本協会では理事、基礎科学部会部会長、陶磁器部会幹事、科学・技術委員会委員等を務め、日本セラミックス協会の活動に貢献し

ている。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1991年東京都立大学大学院工学研究科工業化学専攻修士課程修了。同年助手、1999年博士(工学)。2002年名古屋工業大学助教授、2007年名古屋工業大学教授/2022年先進セラミックス研究センター長。